

弁護士の仕事って、どんなの？民事・刑事・裁判などご説明します！（テキスト版）

※動画より一部省略等していることがありますので、詳細は動画をご覧ください。

皆さんこんにちは。弁護士の山上祥吾です。

今回も、固い話ではなく、弁護士の仕事ってどんな感じなのか、というのを紹介させていただきます。

弁護士の仕事には、大きく分けて民事事件と刑事事件があります。

民事事件は、皆様の間で起きた争いごとを、依頼者の方になるべく有利になるように解決する仕事です。

弁護士は、法律的なことをすべて代理できますので、依頼者の方は、仕事など普段の生活をされて、面倒な争いごとは弁護士が対応する、ということになります。裁判もほとんど弁護士だけが出席することになります。

例えば、報道で、「その件は弁護士に任せている」というコメントが発表されるかと思いますが、これがそうです。私は、これは大変便利だと思います。

また、契約書などの文書を作るのも大事な仕事です。

刑事事件は、ドラマなどでもおなじみかと思いますが、悪いことをした、と疑われている人を援助する仕事です。

悪いことしたのに、何で助けるの、と言われることがあるのですが、私の考えとしては、裁判が完全に終わるまでは、悪いことをした、と決まっていないからです。

犯罪をしてしまったことを認めている人の弁護というには、反省しているなど有利な証拠を裁判所などに出して、なるべく軽い処罰にしてもらおうというような活動になります。

中には、ニュースにもあるように、えん罪と言って、全く無実の人がいる可能性があります。

えん罪は何で生じてしまうのかというと、法律家は、私も含めてですが、一定の証拠があると一定の判断をする傾向があると思います。そのため、不運にも、都合の悪い証拠ばかりが集まってしまうと、間違っただけで有罪とされてしまうことも絶対無いとはいえないと思います。

もちろん、悪いのは間違っただけの判断をする我々法律家なのですが、例えば痴漢に間違えられないように満員電車には乗らないとか、なるべく疑われないように行動することも、自分の身を守る一つの方法なのではないか思います。

また、弁護士の大事な仕事として、裁判があります。

裁判は、裁判所が自分で動いて本当の事情を見つけてくれるのではなく、当事者の方で、証拠を見つけて、裁判所に提出して、裁判所が証拠を見て判断するものです。とにかく証拠が大事で、証拠がないと、話をあまり聞いてもらえない、ということになります。

裁判で勝つためにどういう証拠がいるのか、というのはまさに弁護士の仕事でして、弁護士の仕事の醍醐味も、証拠を探すところにあると思っています。